

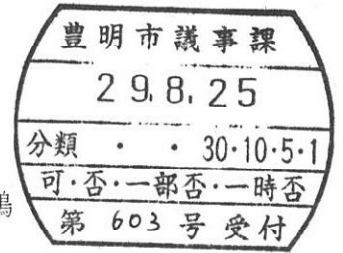
<参考>様式第2号

29年 8月 25日

豊明市議会議長 殿

### 行政等視察報告書

議員名 近藤 千鶴



29年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告  
します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成 29 年 7 月 27 日	潟上市役所	「学力向上の取り組みについて」
平成 29 年 7 月 28 日	秋田市役所	もったいないアクションについて

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

# 7月27日 潟上市 「学力向上の取り組みについて」

## 今年度の重点事項

1. 確かな学力と豊かな人間性の育成

2. ふるさと教育の充実

他者とのつながりをもって学びを共有、深化する子ども

※幼、保、小、中の連携

※校種間を貫く教育の推進

※キャリア教育の視点を生かしたふるさと教育の充実

※特別支援教育の視点を生かした魅力ある学校、学級づくりの推進

「問い」を発する子どもの育成に向けて

※問題解決のプロセスを重視した「秋田の探求型授業」の推進

学習の見通しをもつ—自分の考えをもつ—ペア・グループ・学級で話し合う

—学習内容や方法を振り返る

学校や地域との連携による下支え

※環境ふるさと学習推進事業

※土曜塾、寺子屋

※小中連携による取り組み

①身に付けたい学習習慣、生活習慣

②基本的な学習の流れをそろえる

③家庭学習の習慣化

④校種間相互の授業参観、研究会



## ※感想

秋田県は昭和30年に全国学力テストが39位だったので学習面、道徳教育に力を入れたそうです。授業をベースに家庭学習の習慣化を持続されてきたことが学力向上につながってきたと思います。学習ノートの取り組みを続けられていることに驚きました。そのノートへのコメントを担当をはじめ児童、生徒に関わる教師皆さんで受け持っていることにも驚きました。

最近では幼児期から一人親になる傾向が多くなっていること、6人に1人が就学支援を受けている事を心配されていました。

不登校児童、生徒数は本市と比較すると凄く少ないです。それは、昔からの生活習慣を維持することで心の安定につながっているからだと思いました。

本市は、不登校問題、学力向上対策が課題となっています。豊かな人間性を育む学校教育を実施していく事に重視してほしいと思います。数年では結果は出なくても継続していただく事を要望していきます。

## 7月28日 秋田市もったいないアクションについて

### 食品廃棄物の現状

家庭ごみの組成割合（H27度）の生ごみで手つかずの食材、傷んでない野菜やお弁当、未開封の冷凍食品やレトルト食品も捨てられている。

### 市民の方に向けた啓発

- ①計画的に購入する
- ②食べきれる量を調整する
- ③おいしく食べきる



### 食べきりアイデアレシピ集の作成

H27年度に家庭から出る生ごみの減量を目的として、市民の方からの残った料理のリメイクアイデアや食材の使いきり調理法などを募集し、「食べきりアイデアレシピ集」を作成。H28年8月には、タニタ食堂と共催で「食べきりアイデアカフェ」を開催。

### 「もったいないアクション」について

- ①「食う～べえタイム」のご案内  
乾杯から30分と中締め前10分を目安に、ご自分の席で食べてお料理を食べきってもらうように司会者からアナウンスしてもらう。
- ②飲食店等への「食べきり啓発ポスター・啓発POP」の設置依頼  
事業者だけでなく、来店する市民等の食べ残しごみ減量への関心を高めたいため。

### 「もったいないアクション協力店」

#### 協力いただきたい取り組み

食べ残しを減らすための案内一食べ残しを減らすため、つぎの中からお店で実施可能な取り組みを選択。

- ①ハーフサイズメニューの設定
- ②持ち帰り希望者への対応
- ③その他、食べ残しを減らすための工夫

小学校の授業で「ごみを減らすためには？リサイクルしよう。」をはじめた。

- ・理科の先生OBを再任用して授業をしている
- ・対象は4年生後半～5年生にした。それは大人になる10年前からの教育が大切と考えたため。

## ※感想

・市内の家庭ごみの現状を把握し、何をしていけばごみ減量につながるか考えて、取り組みを始められ的確に進められていると感じました。

・協力を得られた店のジャンルにより卓上POPの絵を工夫されている事、そのPOPを職員の皆さんがアイデアを出して手作りしている事に感心しました。

・家庭ごみの半分が生ごみに着目し、冬期に家庭において堆肥作りの講座を開催したり、集合住宅に住んでいる方には、段ボールを利用して堆肥作り出来るようにキットを無料配布している事にいい取り組みと思いました。

・本市において同じ様に取り組む事は、住宅環境等違いが多いので検討が必要と考えます。

・小学校への授業は、学校の要望が少ない現状があるそうです。今後の対策として授業に行ける余裕が無いのなら、放課後児童クラブで開催できないか検討するそうです。

児童クラブでの開催を考えられたのは、この授業を児童達に少しでも早くしたい熱意が伝わってきました。児童にごみ減量の意識、リサイクルの大切さが伝わっていくと家庭に広がるのでとても重要なことと思います。本市もこれから食品ロスの事業に力を入れていく事業者、市民、学校等様々な事を検討して取り組んでもらいたいと要望していきます。